

次世代GHP 4月発売

「エグゼアⅢ」 ガス3社と メーカー3社 超高効率機を共同開発

東京ガス、大阪ガス、東邦ガスのガス3社はアイシン精機、パナソニック、ヤンマーエネルギーシステムのGHP室外機メーカー3社と共同で、超高効率GHPの次世代機「GHP エグゼアⅢ」を開発した。4月から販売を開始する。各社製とも能力16馬力、20馬力、25馬力、30馬力の標準機、リニューアル機、組み合わせ機をラインアップする。

「省エネと節電の実現」という社会的ニーズや、気候変動への対応を踏まえ、EHPの10分の

1以下の低消費電力を維持しながら、さらなる省エネ化、機能性向上を目的に開発された。

具体的には▽すべての機種でAPFP（通年工率）を約10%向上▽設置条件や運転条件により異なるが、一部の製品を除き（酷暑、厳しい気象条件）

「HVAC&R JAPAN 2020」では、日

厳冬、積雪時）でも冷暖房運転の継続▽機能を向上させながらコンパクト・軽量化による設置性向上を実現した。

3月8日から4日間、幕張メッセで開催される「HVAC&R JAPAN 2020」では、日

本ガス協会や各メーカーのブースで一部の実機を展示して同製品を紹介する。
19年1～12月のGHP出荷実績は、学校空調特需も捉え、前年同期比43%増の3万7628台と大きく伸ばしている。LPGガス仕様機は台数で26%増の8088台、容量では43%増の15万7033馬力。学校空調特需も3月末には対象教室の90%以上で空調機設置が完了する見込みだが、強まる環境対策への要請を捉えた新機種投入を好機とし、今後も積極的に提案活動を進めていきたい。



アイシン精機製



パナソニック製



ヤンマーエネルギーシステム製